

〔日 時〕 平成31年3月18日（月）午後1時30分～3時30分

〔場 所〕 伊勢市役所本庁地下打合せ室4

〔出席委員〕

議長 藤岡 喜美子 氏（特定非営利活動法人
市民フォーラム21・NPOセンター 事務局長）
秋山 則子 氏（NPO法人三重みなみ子どもネットワーク 理事長）
川合 正良 氏（社会福祉法人伊勢市社会福祉協議会 地域福祉課長）
古川 卓 氏（松阪市企画振興部 地域づくり連携課 ）
丸山 美幸 氏（伊勢市生活環境部 市民交流課 副参事）

【いせ市民活動センター指定管理者】

増川 尚男（特定非営利活動法人 いせコンビニネット 事務局長）
浦田 宗昭（ 〃 事業部長 いせ市民活動センター企画部長）
西川 恒夫（ 〃 いせ市民活動センター長）

【事務局】

上村 静香（市民交流課 市民交流係長）

<議題：いせ市民活動センターH30年度中間報告、H31年度計画について>

- 委員 指定管理者独自の取り組みとして、災害支援の募金にも力を入れているが、募金先はどこか？
- センター 日本赤十字病院に寄附している。
- 委員 日赤ということは、寄附の種類が義援金であるということ。支援金も検討してみてもどうか。支援金は被災地で活動するNPOに寄附するしくみ。義援金と支援金の違いを明確に表示し、両方募金を行っても良いのでは。
- センター 被災地支援については、今年度、岐阜県関市へ行き、支援活動をしてきた。関市へは、伊勢市災害ボランティアセンターの取り組みとして、社会福祉協議会、市と一緒にいった。
- 委員 被災地へ向かうのも良いが、被災地の方々は外へ出たがっている。例えば熊本の方々を伊勢へ呼びして、災害時にどう動いたか、どのような準備が必要かなど、教えてもらう場を設けても良い。
- 委員 平成31年4月1日から、ララパーク内に、社会福祉協議会のサテライト「げんこころ一む」がオープンする。サテライトに関しては、いくつかの候補地の中で、幅広い年

年齢層が訪れること、客の滞在時間が長いことから、ララパークを選定した。

センターの相談件数が減っているとのことだが、ここで社協と一緒に相談業務を行うなど、連携してみてもどうか。

センター すぐにお答えはできないが、良い話だと思う。

委員 松阪ではどのような動きがあるのか。

委員 松阪市市民活動センターの指定管理者である Mブリッジに地域プロデューサー業務を委託し、「げんきアップ松阪」という、市民活動団体が地域（住民協議会、自治会など）と連携するための事業を展開している。この事業に関連し、3/20 に地域づくり活動報告会を開催する。

委員 リユース PC 寄贈事業について、何台の成果があるのか？

センター 次回回答する。

委員 「若年層の参加促進」とあるが、若年層とは具体的にどの年代を指しているのか。またこの課題に対する取り組みは、31 年度計画のどこに書いてあるのか？

センター 具体的な年代は想定していない。現在の登録団体の高齢化が進んでいるので、それと対比して「若年層」と表現した。

登録団体の中にも、高校生の団体が 1 団体、その少し上の世代の団体が数団体あるが、今の市民活動センターのしくみは若い人にはなじまないと感じている。

市民活動フェスティバルなどのイベントの実行委員に入ってもらいたいと考えている。

委員 伊勢市では、まちづくり協議会も高齢化している。毎年行っている市民アンケートを見ると、認知度は上がっているが、20～50 代でまちづくり協議会に関わりたい人がすごく少ない。まちのこれからを担っていく世代に興味を持ってもらうにはどうしたらいいか、悩むところである。

委員 若年層を取りこみたいなら、イベントの実行委員ではなく、センターの運営側に入れると良い。また、狙うべきは中学生。高校生は外へ出て行くことに目が行ってしまい、大学生は卒業するといなくなってしまう。地元の中学生を巻き込みたい。小学生でも良い。

以上

閉会